

江津市

石州瓦使い、全天候型の広場

公共複合施設 デザイン案公表

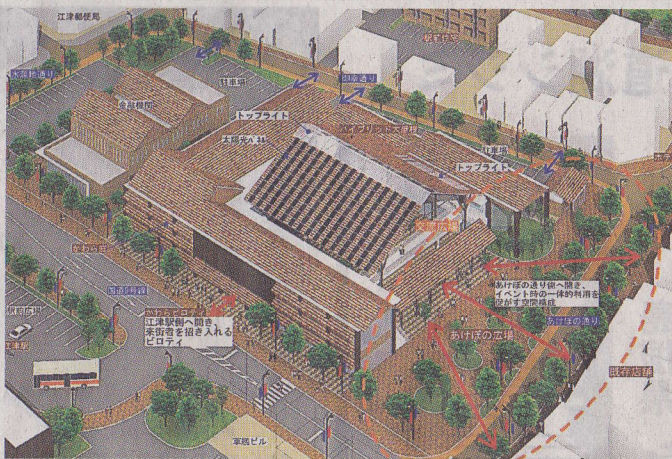
江津市が、同市江津町のJR江津駅前に建設する公共複合施設の設計業者が決まり、施設のデザイン案が6日、公表された。地場産材・石州瓦の大屋根を設置した全天候型の交流広場が目を引くデザインで、市民の交流の場として期待される。

設計業者に決まったのは感性舎（広島市中区）。有識者らでつくる選定委員会が11月29、30の両日、応募があった10事業者から提案説明を受け、建物の創造性や地域性、コストなどを総合的に評価して決めた。

同社が示したデザイン案は、2階建てで大屋根やひさしに石州瓦

を使用。交流広場は、敷地に面した国道9号と県道あけぼの通りの両方から入ることができ、石見神楽やコンサート、フリーマーケットなどが開ける十分なスペースを確保した。大屋根には太陽光パネルをデザインしており、設置の有無を含め、今後検討する。

公共複合施設は駅前



JR江津駅前に建設する公共複合施設のデザイン案

ている。
同都市計画課の久利治課長は「良い提案を受けた。イベントなどソフト面を充実させ、活性化につなげたい」と述べた。